

NO33

福楽寺の梵鐘

所在地はいなべ市藤原町（三交バス「上之山田」下車徒歩5分）



福楽寺の梵鐘は、戦争の深い傷を負っています。

大戦中、鉄や銅などでできた製品は、いたるところで軍に供出されました。寺の梵鐘もまたその例外ではなく、釣り鐘をはじめさまざまな仏具がその対象となりました。

静かな山里に佇むこの寺の梵鐘も四日市の軍需工場へ運ばれ、溶かされる運命にありました。

しかし軍需工場が空襲で焼かれ、梵鐘は溶かされずに残ったものの、その時の爆撃で穴があけられ傷ついた姿で、戦後、故郷の寺に戻りました。今も整理番号としてつくられた数字や成分検査用に削りとられたと思われる跡が痛々しく残っています。

戦争中の金属供出の名残である穴のあいた鐘は、戦争という大きな力に押し流された苦悩を今も物語っています。

20060825 掲載